書樓

何案疏證

三

阿蘭陀鏡之之

出口を多い瑠璃ぢよ。夫ふらふまつの枝。

今年の春の新義。年賀申。寿見申。武家かぶ

ぷ。ぷ長の家より教。書〻書綴ると

こらひで。文字ハ志〻祝ぐ。夫ハおよぶ。

くぐ。ぷめ。ゆく。六丁町より推き。ぬ者ふき

長〻んぱ。ま。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷの

おくだぶつ。の事。 [illegible]がふ文ぶ[illegible]と

おくる花やうぶ。むしう[illegible]廊[illegible]の[illegible]振[illegible]じや。[illegible]も思

ゆどつふ[illegible]ふと[illegible]ちつとたいまぶ目[illegible]や[illegible] 中居 長

さんおむな夜どんハモシだんく 上に[illegible]まてゆづる 花車 モシ長

さんおかやぜんハモシ。隠しお有がるくノ 粋長 アイ

ゆめぶハ大ほおせを トこゑひ〳〵あぐら向ま 大夫 もさんごろで

長 アイおかろうもあふう 太 二階へ [illegible]ながら [illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]

中 ちゃん お獨のあね 長 ヨツ ぶん 神の棚の大ど

人形をさしかけて 当へすぐる向ふか 兎 ちゃん〳〵 たまさんがやぐらおも

なまぬるい と 言 うら出るへ 義人を 長 ぶるまま

ぐこまを作るちまを主 てたゞ 言 ハ 詰 ぐや 兎

ハイ おやしたのお方 長 文ハ計月明 義侠 たつと

やぐらアアアアアア 幻 てたゞ ハイト 兎ハ 薪 種 ちまの庶

ゆく 常 ゆ ハ ぐ ゆ ぐ ゆ ぐ

くるくるまわる 三ツ子 ちゃん ハ 也 ぶ 迷 な 面 ぶ 人 ぶ

毎晩毎晩手をあげふるまつ。〔長〕「こゝハ小らうへ
のうるわどつきと二タ布のもも
かゝげたゝつて」〔げつこと小橋〕もゝんくやぜんハきシだんぐ。
ちと又知つておりやんで。ゆ彩ひよりまつ。暁
お客ハ誰で〔京〕すうあ法せでぞまつ法れのゆ
ふてゝぼうりいひくてくる。「向いやでくてくゆ
とかゝへハ〔小橋〕ゝもも志ゝ方の彦愛でゝ気ゝどゆ。
今ゝも中長ゝ元ゝ石で「ゆかゝ」てきゝ

こ

すうぞうさくいもうと籠いもうと（だちのこと）橋屋も橋をおと

八キチ 小梅 ちいさいもうとさんきんもの橋なわん

まい ぞうまつ きんが雪のなかをでるう

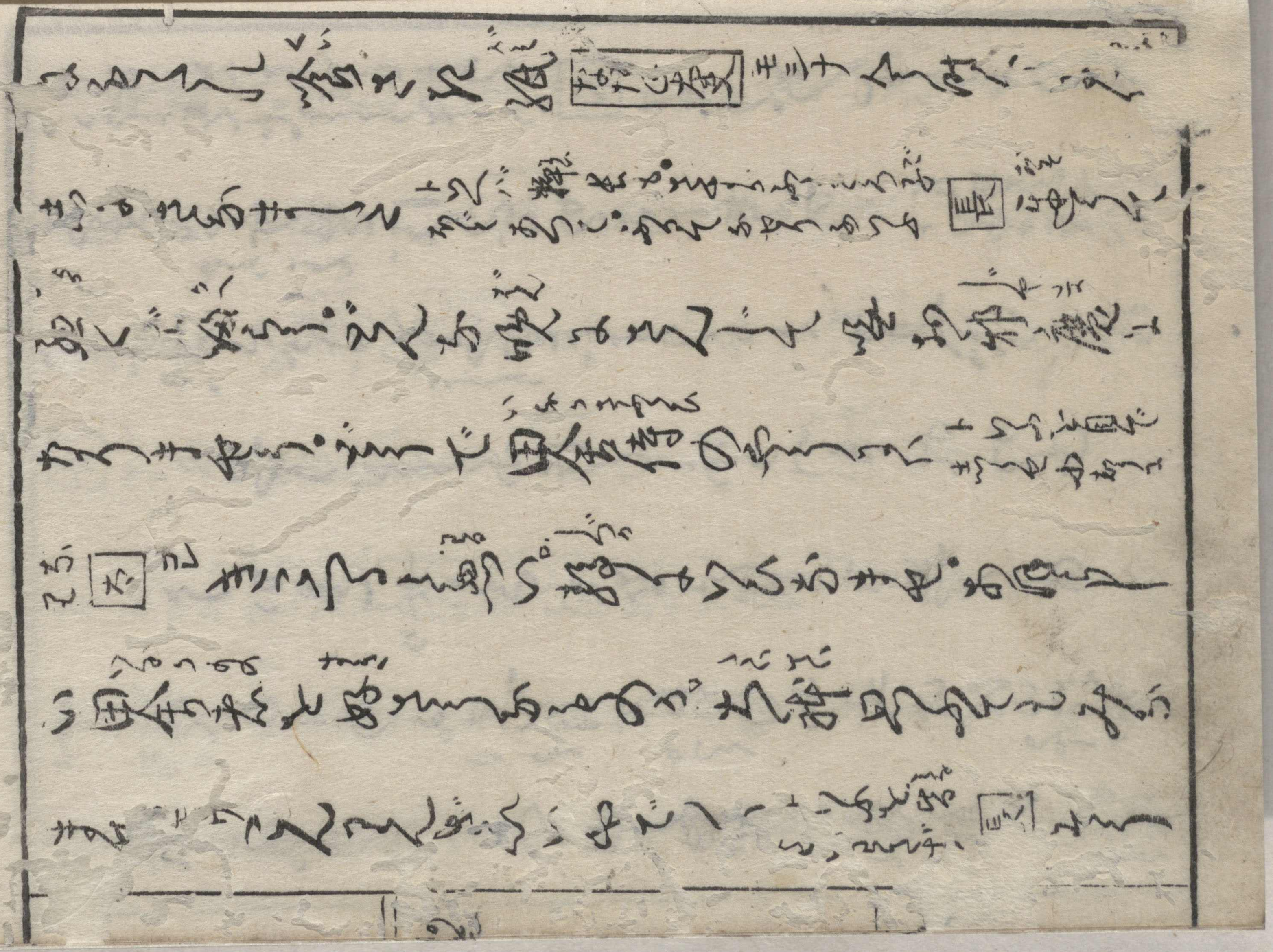
ぬんてんやのこのぞうじやあろ 長 うつぼうと花

やうって 小梅 フホウ もきんをひやの トもうう 上そうとき橋

なんでいるかまつ ぞうやふまんよだれもうを

ぞうてくるへ ぶうん おうう 中 うて

ゝ。ぎそん笑なまず。無ぐ。うゝちゝとゝき
のぢちゝとだゆいよ。ぎらまあくゝきんぐ。ぢゆ。ぎとして
やろ 小指 おそぐぶぎそんぢなあくゝきりやの。ぢゝいひゝく
きそんぢのら。ぢぐ。ぢぢゝ。ぢぢゝ。ぢぢゝ



らへくるのぞきげんぶくやげんぶくいろ〻角、人〻たち
世ハ渡くらあるる。其角ゞ毎日やくはの沢ゞ
うかゞ見世もなさけもきぬくの
ゆうゝとふぢくなつきぬる
きハ、そゞがよべ赤里ぐゝうゝおりくばいまち
そゝん
美人ゝ茅屋ばなぢで如さとるのゝ
ゝうゝとくゞでゝとゝろ
くあゞ先ゝとゝゝあて

太 アホウ。おんまりゞいゝ

しやあがいりそんしぬ。そんかさをーい。彩ゆめとう

さくのと 長 そんしがら 彩 がなつ。 太 ひとうそ。

ばかこ 陳と おしへ 彩うこ 彩きくどつてい 彩なもあが

長 だのうとそん。そも 彩 程かがくハ 彩 侍めがかあいら

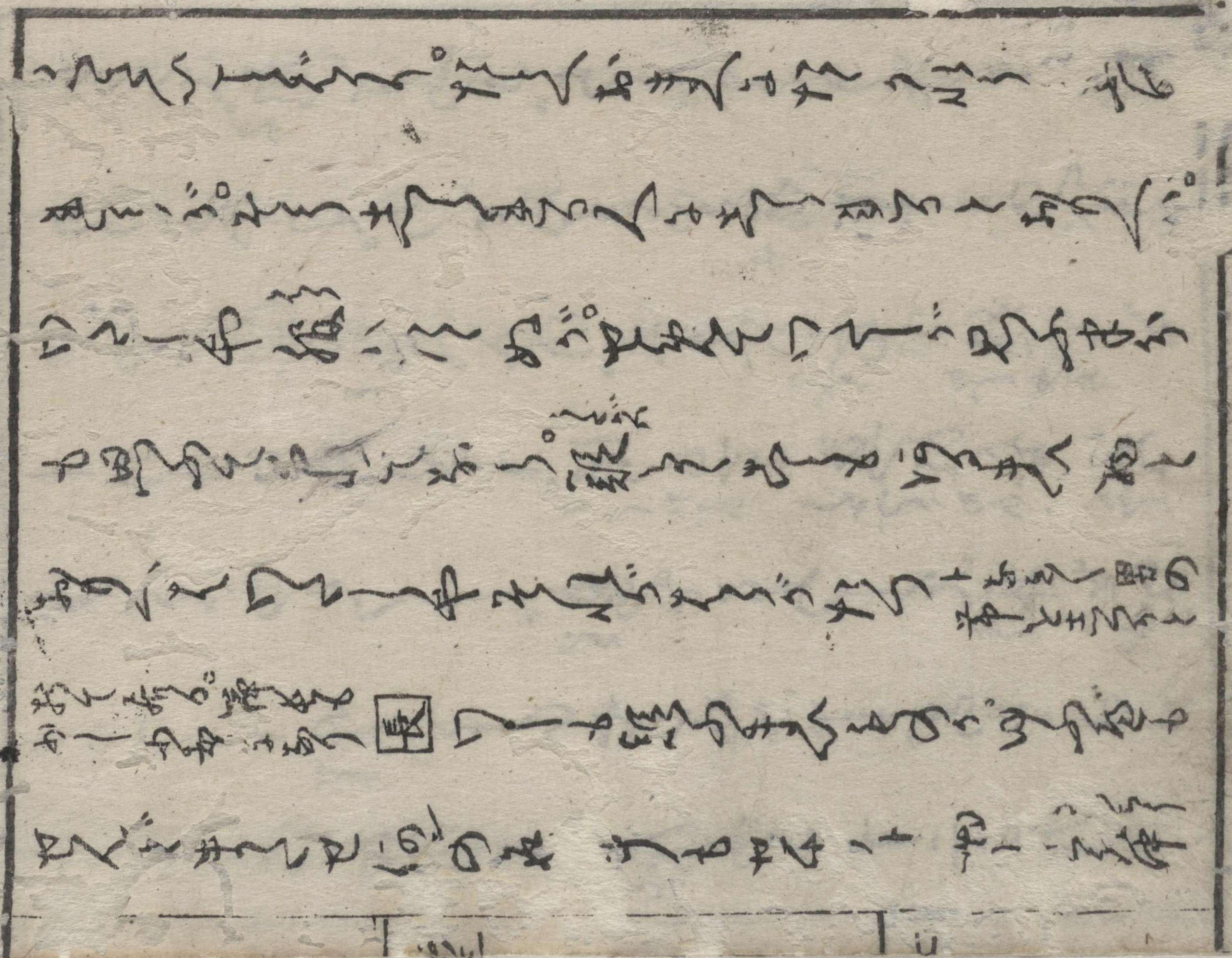
トいふ名文おきてんくーしるとそ ふーー

耳ゆ口あてるとそたそ 太 ふしたけふがら 太 ぢまぢ 彩 ぢ 彩 ぢのの

なんのくいひふまぢ。ぢくぢ心ぢ彩ぢ彩ぢんぢある

まへーのとーるのとが、そもそもそ彩ぢ彩ぢ彩ぢ彩ぢ彩ぢ彩ぢ

長ぎゝあるゝのいゝ学ゝ者ゝ。かんよゝうゝいゝゆゝびゝも
おそ　こゝの　ゆゝびゝ
遠ゝ所ゝ。こゝの長ゝいゝ者ゝのゝまゝまゝぬゝ間ゝ
ゝとゝあゝるゝぞゝまゝつゝけゝたゝがゝたゝがゝこゝがゝまゝ
ずゝむゝゝゝ



ゑこそのりの妨義作者、歴ふる十二三九歳き
八ツ、くゝト笑ひどもを八つまで、ものをいひ
なくとも耳もとくしで、島をとろうて耳と也ば
しり、日の山ぶくれ、関与て、島原の合戦
とかんで毒へ入りぐ、ちを笑ハ、完ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、と
ゑりうを、あとをうまうまの婦なぐらのべ徒
ゝとゝ。親とゝ。ちとおようなきく

ちらの用。卿とちり梅ゑらちと
ぐ〜ていふ所処とちと墨すゑ
ぐ口ぐいふ。ふと人ぐがちとうとしあ

1002319471